



平成24年7月23日

国際物理オリンピック参加生徒の成績について

文部科学省では、(独)科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しておりますが、このたび、エストニア(タリン・タルトゥ)で開催された「第43回国際物理オリンピック」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

(共同発表：特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会)

1. 受賞状況 : 金メダル2名、銀メダル3名

2. 参加者 : 5名の高校生

3. 受賞者詳細 :

えのき ゆういち 榎 優一さん※	灘高等学校 (兵庫県) 2年 (17歳)	金メダル
おおもり たすく 大森 亮さん	灘高等学校 (兵庫県) 2年 (17歳)	銀メダル
かさうら かずみ 笠浦 一海さん※	開成高等学校 (東京都) 3年 (18歳)	金メダル
かわばた こうへい 川畑 幸平さん※	灘高等学校 (兵庫県) 3年 (18歳)	銀メダル
なかつか ひろまさ 中塚 洋佑さん	滋賀県立膳所高等学校 (滋賀県) 3年 (18歳)	銀メダル

(氏名の50音順にて掲載)

(年齢は本大会終了日時点のもの)

※2011年大会において榎さんは金メダルを、笠浦さんと川畑さんは銀メダルを獲得。

4. 参加国数/人数 : 81か国・地域 / 378名

5. 場所 / 期間 : エストニア (タリン・タルトゥ) / 2012年7月15日~24日

6. 派遣機関 : 特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会

(お問い合わせ)

文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 大塚、伊東、箕輪

電話 : 03-6734-4191 (直通)

03-5253-4111 (内線 3884, 3891, 3890)

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 事務局 菊池

電話 : 03-5228-7406

◆大会概括

- 国際物理オリンピックは1967年にポーランドにて第1回大会が開催された。
- 2012年のエストニア大会は、第43回目。
- 日本は、2006年から参加を開始し、毎年5名の生徒を派遣。日本からは7回目の参加。
- 昨年のタイ大会は、85か国・地域、393名の生徒が参加し、日本の成績は金メダル3名、銀メダル2名であった。
- 本年のエストニア大会には、81か国・地域から378名の生徒が参加。日本は金メダル2名、銀メダル3名であった。

◆日本代表団の日程

7月14日(土)	エストニア(タリン)到着
15日(日)	大会登録
16日(月)	開会式
17日(火)	理論問題試験
18日(水)	エクスカージョン
19日(木)	実験問題試験
20日(金)～22日(日)	レクチャー、エクスカージョン、フットボール大会
23日(月)	閉会式
24日(火)	エストニア(タリン)出発
25日(水)	成田到着

◆参加生徒とその居住地

			居住地	
<small>えのき</small> 榎 <small>ゆういち</small> 優一さん	灘高等学校(兵庫県) 2年(17歳)	金メダル	兵庫県	
<small>おおもり</small> 大森 <small>たすく</small> 亮さん	灘高等学校(兵庫県) 2年(17歳)	銀メダル	兵庫県	
<small>かさうら</small> 笠浦 <small>かずみ</small> 一海さん	開成高等学校(東京都) 3年(18歳)	金メダル	神奈川県	
<small>かわばた</small> 川畑 <small>こうへい</small> 幸平さん	灘高等学校(兵庫県) 3年(18歳)	銀メダル	兵庫県	
<small>なかつか</small> 中塚 <small>ひろまさ</small> 洋佑さん	滋賀県立膳所高等学校(滋賀県) 3年(18歳)	銀メダル	滋賀県	

(「居住地」は保護者宅の所在地)

◆国際物理オリンピックにおける過去3年間の日本代表の成績

- 2009年(第40回)メキシコ大会(参加規模:72カ国・地域、317名)
金メダル2名、銀メダル1名、銅メダル2名
- 2010年(第41回)クロアチア大会(参加規模:82カ国・地域、367名)
銀メダル1名、銅メダル3名、入賞1名
- 2011年(第42回)タイ大会(参加規模:85カ国・地域、393名)
金メダル3名、銀メダル2名

◆「国際物理オリンピック (International Physics Olympiad)」について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。参加資格は、20歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこととされている。各国から高校生等が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育を一層発展させることを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、また次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性を鑑み、開催国を持ち回りとして毎年開催されている。

各国内で選抜された最大5名の代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。10日間という長い会期の間、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に触れる様々なイベントに参加することを通じて、他の国々からの参加者や主催者と国際的な交流を深める。引率役員は、試験問題についての討論会に参加し、自国語への翻訳作業や試験結果についての調整などを担う。各国の引率役員が理科教育推進のための国際的なネットワークを形成し、自国の理科教育を国際標準に照らして見直す良い機会ともなっている。

◆全国物理コンテスト「物理チャレンジ」について

「物理チャレンジ」は、大学等に入学する前の青少年を対象として物理の持つ面白さと楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模のコンテストで、国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねている。

「物理チャレンジ」は、2つの段階から構成されており、一段階目の「第1チャレンジ」は、「理論問題コンテスト」と「実験課題レポート」からなる。理論問題コンテストは全国各地の会場で実施され、また実験課題レポートは参加者が自宅や学校で課題実験に取り組み、そのレポートを郵送で提出するものである。二段階目の「第2チャレンジ」は、第1チャレンジの総合成績により選抜された約100名が、夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式のコンテストである。理論問題と実験問題についてそれぞれ5時間の試験を実施する。ここでは成績上位6名に金賞、続く12名に銀賞、続く12名に銅賞、さらに続く若干名に優良賞等を授与する。

第2チャレンジで優秀な成績をおさめた参加者から、翌年の国際物理オリンピックへの参加資格を持つ日本代表候補者を10名程度選出し、7か月間にわたる通信添削、実験実習、冬休み及び春休みの合宿研修等の教育研修を実施したのち、最終選考を行い5名の日本代表を決定する。

なお、第2チャレンジは、国際物理オリンピックを模した合宿形式のメリットを活かし、コンテストばかりでなく第一線の研究者との対話や先端研究施設の見学を実施し、参加者同士ならびに参加者と実行委員（物理学研究者）との交流を深める機会を設け、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となる構成としている。今年は8月5日から岡山県で開催される。

◆参考資料に関するお問い合わせ先◆

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 事務局 菊池

電話：03-5228-7406

ホームページ <http://www.jpho.jp/>